

# 大阪の防災

地震に  
備える

10

神大震災が起こった。被災地を訪ねると、汚れた川の水を沸かして飲んで、被災民の光景を何度も見た。この体験が、技術者魂に灯をつけ、災

害用浄水器の開発につながった。

■3県に無償貸し出し 東日本大震災では、協

阪神大震災、東日本大震災で被災地が最も苦勞したのは「安全・安心な水」の確保。水は「生命の源」で、人間生活を営む上で欠かせない。東日本大震災では、それが放射性物質に汚染されるとい

■被災住民の姿に奮起 何十年も続く恐れのある、放射能に汚染された水への不安。絶望的な状況の中、放射性物質を除去できる災害対応浄水装置が関心を集める。開発したのは浄水器製造販売

会社「ニューメディア・テック」(吹田市)の社長、前田芳聡さん(55)だ。もともと大手水質分析機メーカーの技術者。退社して浄水器会社の起業

## 原子力 ③



浄水装置の前に列をつくる被災地の人たち。福島県国見町の仮設住宅

「逆浸透膜」で浄化1千万分の1という細かい穴が多数開いたろ過膜の「逆浸透膜」が汚れた水に圧力をかけ、この膜を通過させることで、水に溶け込んだ農薬や有害な金属イオン、ウイルスなどを取り除く。前田さんが開発した浄水装置は水を循環させるポンプや浄化後の水質をチェックするセンサーを内蔵。においを除去する活性炭などのフィルターを組み合わせている。

「雨水」「河水」「海水」「風呂水」「プール水」などを飲料水にすることが実証実験で認められ、2007年の第2回「ものづくり日本大賞」で優秀賞を受賞した。

装置の有効性が実証されたことで、前田さんは被災地3県の公共施設に16台の装置を無償で貸し出した。被災地ではお年寄りや幼児を連れた母親らがタンクやペットボトルを持って給水する光景が見られる。「安心して子どもに水を飲ませられる」など、被災地からは感謝の言葉が届く。

前田さんは「風向きで放射性物質の流れが変わる。今後もどの地域にくるか分からない。放射能除去装置は必要」と強調する。

# 「安全な水」被災地に

## 放射性物質浄水器で除去

(おわり)

(この企画は大山勝男、若野正太郎、北野保司、福安聡、木下功が担当しました)